

100年企業を目指す上で
もつとも難しいとされている
のが事業承継です。

中小企業の多くはこの問題
をなかなかクリアできないの
が現状です。

大企業の場合は、所有(株
式)と経営(経営者)が分かれ
ているため、別々に手続きを
進めていくことができます。
一方、中小企業の場合は、所
有(株式)と経営(経営者)が
一体のオーナー企業が大半を
占めているため、経営者が代
われば株主も同じくして変わ
ります。その結果、株の移動
により税金が発生するなど、
非常に複雑な問題を抱えるこ
とになります。

連載

120年続く100年企業コンサルタントが伝える
「つぶれない会社」をつくるために
100年続く老舗の教え!

第5回

「100年企業」になるための壁 “事業承継の難しさ”

藤間公認会計士税理士事務所 所長

藤間 秋男

また、血の繋がった後継者
が必ずしも経営者に向いてい
るとは限らず、生え抜きの従
業員を後継者にしたくても、
借入金を保証も経営者個人が
保証しているケースが多いの
で第三者への引き継ぎも難し
い場合が考えられます。

100年企業になるために
は、経営者の代替わりが4回
ほど必要になります。つまり
4回の事業承継があり、中小
企業の多くは、この4回の壁
を乗り越えていかなければな
りません。

たとえ、経営理念を守って
いる。信用第一・品質重視に
している。社員を大切にしてい
る。伝統(理念、家訓、品質

他)と革新(新商品開発、新販
売方法、IT化など新技術の
導入)の両方を行っている。コ
アコンピタンス(絶対的差別
化)経営を追求している。商
売繁盛し続けている等々、
といった経営が現在できてい
ても、事業承継がうまくいか
なければ会社は続けられませ
ん。

中小企業の事業承継は待つ
たなしの状況ですが、後継者
はすぐには一人前の経営者に
はなれません。時間をかけて
育て、経営をサポートする環
境を作つてあげて、初めて経
営者としてのスタートライン
に立つことができるのです。
日本経済は、縮小傾向にあ

ります。拡大傾向の世の中と
は違い、経営環境も目まぐる
しく変わつていきます。そんな
厳しい世の中を生き抜いてい
く経営者を育てていかなないと
100年企業にはなれません。
1日でも早く後継者を発
見・指名し、事業承継に取り
組むことは、中小企業が生き
残るための秘訣であり、同時
に100年以上続く企業にな
るための秘訣でもあると言え
るのではないのでしょうか。

藤間 秋男(どうま あきお)

公認会計士・税理士・中小企業診断士・行
政書士。1952年生まれ。慶應義塾大学卒
業。82年藤間公認会計士税理士事務所開業。
経営改善、財務強化、節税対策、経営計画、
相続・事業承継対策などをテーマとした戦
略と実践プログラムで好評を博す。現在有
資格者40名を含む、総勢140名のTOM
Aコンサルタントグループの代表。著書に
「法人税節税チェックポイント78」他多数。